

要配慮者利用施設における

洪水、土砂災害

避難訓練の手引き（第2版）

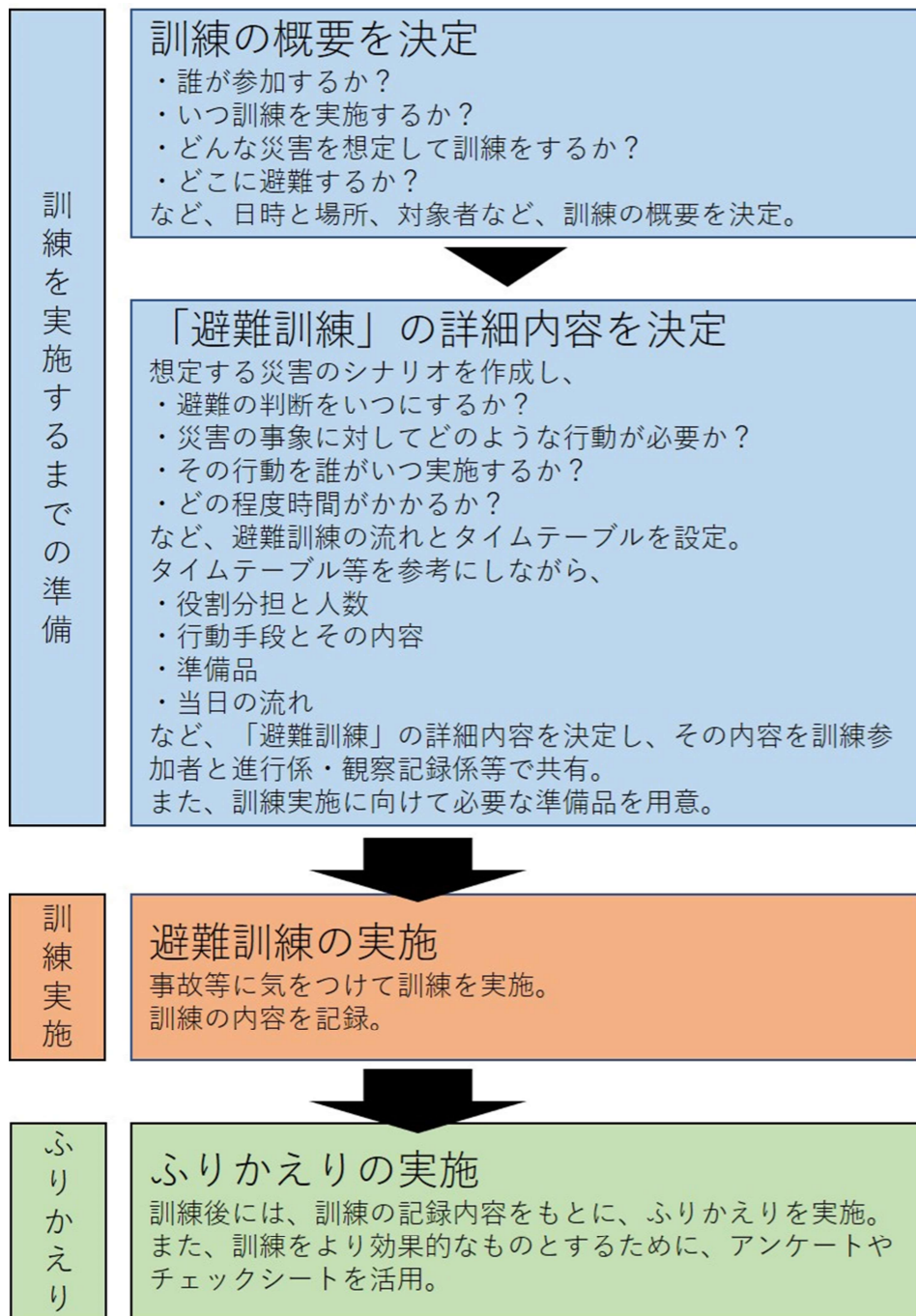
【概要版】



徳島県

要配慮者利用施設における避難訓練は準備、実施、ふりかえりの3つのステップからなります

次のフローを参考に避難訓練をはじめてみよう。



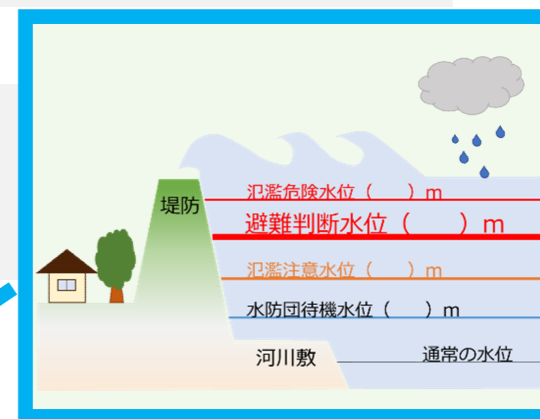
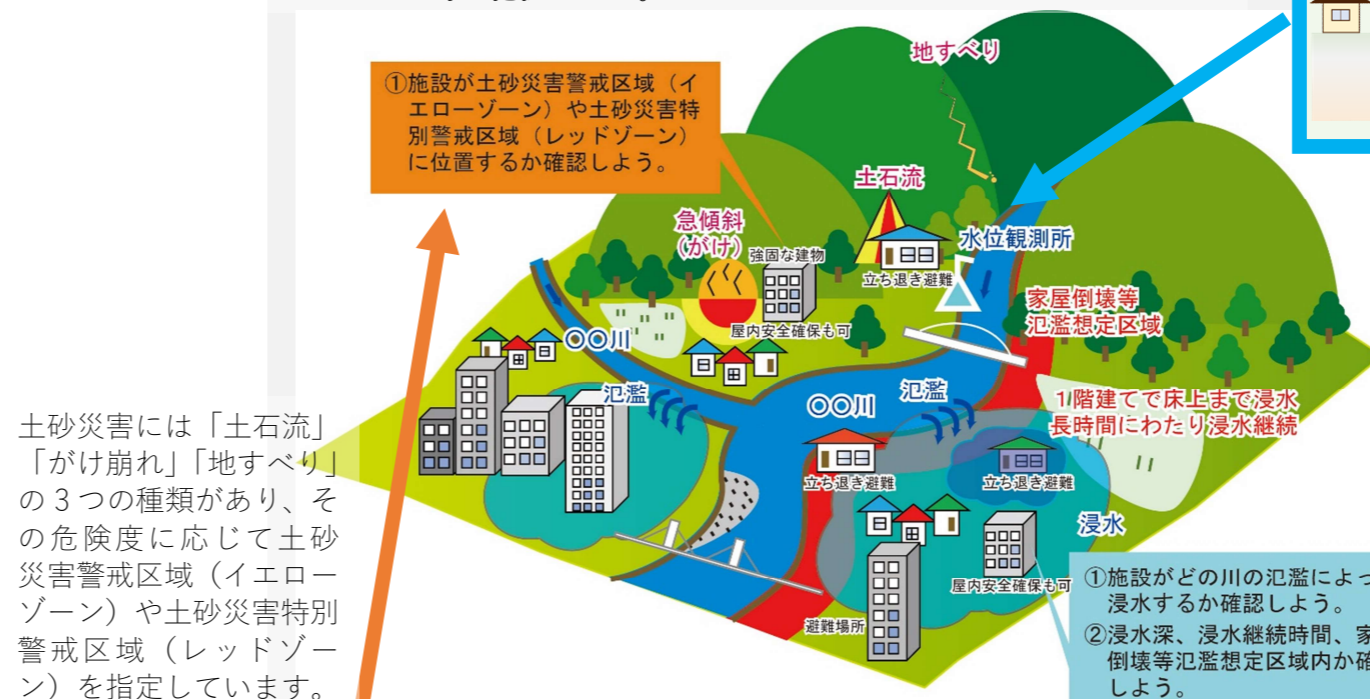
まずは準備をしよう

①いつ、どこで、だれが訓練するか決めよう

- 目的：的確な情報収集と伝達、スムーズな避難誘導が出来るように役割や行動を確認
- 参加者：利用者及び施設職員等
- 日時：平成〇年〇月〇日（〇）〇時〇分～〇時〇分（約〇時間）
- 場所：〇〇〇〇施設
- 訓練内容：
 図上訓練（DIG）・実動訓練（情報収集、避難誘導）
 昼間・夜間
 平日・休日

②どんな災害を想定して訓練するか決めよう

施設の立地場所や周辺状況によって、発生する災害の種類が異なります。施設にどのような災害の危険性があるかを、市町村が作成しているハザードマップ等で把握しよう。

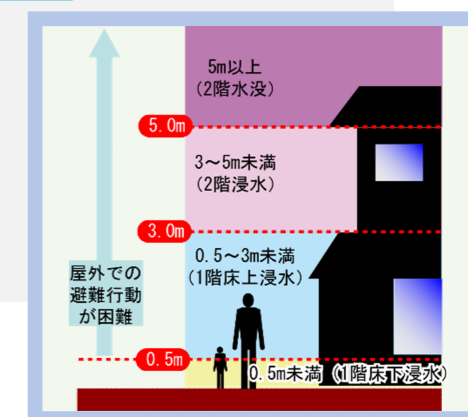


最寄りの水位観測所で設定されている各種水位情報を、「徳島県県土防災情報管理システム」などから調べよう。

浸水深の着色は、境界を次のように区分しています。

- 0.5m（1階床高）
- 3.0m（1階天井高）
- 5.0m（2階天井高）

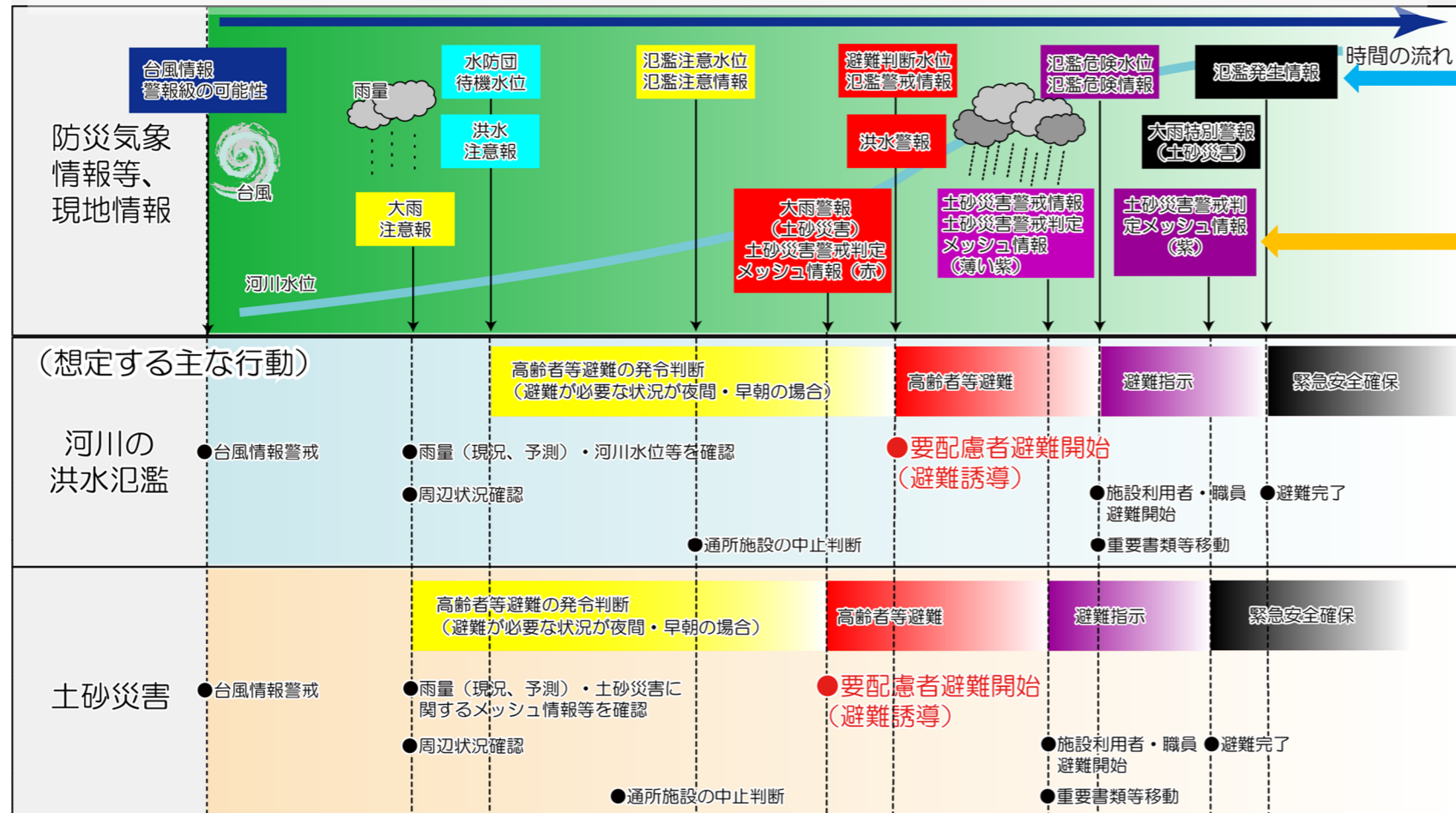
浸水深を確認し、施設の高さと比べて、適切な避難行動がとれるようにしましょう。



③シナリオをつくり、いつ、誰が、どんな行動をとるか決めよう

想定する災害の具体的なシナリオを設定しよう。
シナリオの設定では次の事項を決めよう。

- ①被害発生の規模（ハザードマップ等を参考に決めよう）
 - ②台風進路や雨の降り方、河川水位の上昇の仕方等の気象・水象の状況（過去の災害記録等を参考に決めよう）
- ※シナリオの設定が難しい場合は、徳島県や市町村に相談しよう。



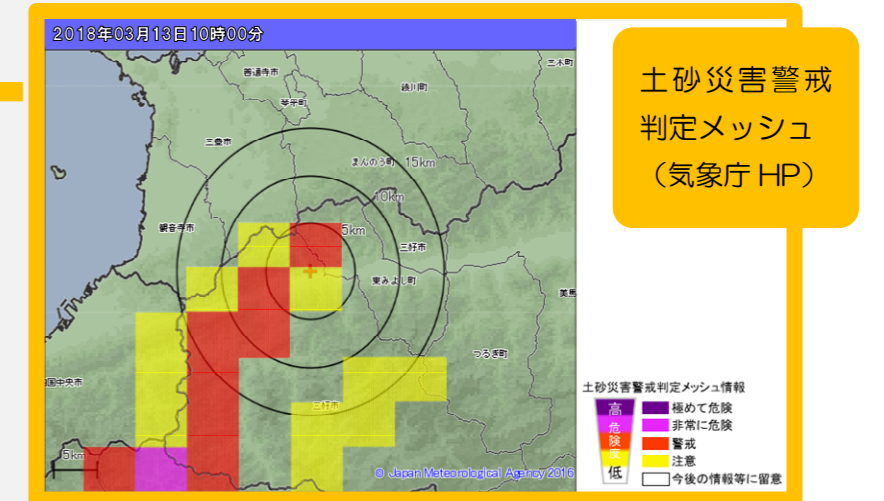
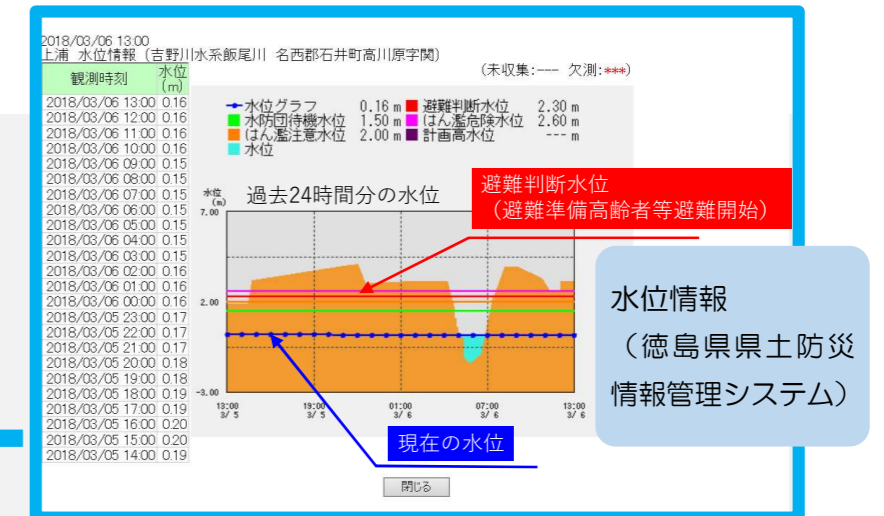
イメージであり、実際の情報や対応の流れが異なる場合がある。

- ①避難確保計画およびシナリオ等をもとに、訓練参加者の役割を決めよう。
- ②訓練参加者以外に、観察記録係等の訓練を補佐する者も決めよう。



※要配慮者については体調等を考慮して職員等が代役する方法も考えられる。

- ①訓練参加者が、どのようなタイミングで、どのような行動をとっていかについて、時系列（タイムテーブル）で整理しよう。
- ②これまでの経験などをもとに、行動の所要時間の目標をたてよう。
- ③準備品を用意しよう。



時間	事象・情報発令状況	内容	参加者	場所	所要時間
10:00~		①事前説明	職員：約〇名	〇棟 2F	約 10 分
10:10~		移動等 ・勤務場所【管理職以外】			約 5 分
10:15~	台風発生・接近 大雨注意報	②情報収集伝達訓練 【警戒・避難準備期】 ・情報収集【情報収集係連係】 ・周辺確認【情報収集係連係】 ・通所施設の中止【施設長】	職員：〇名 (管理職)	〇棟 1F	約 15 分
10:30~	大雨警報（土砂災害） 土砂災害警戒判定メッシュ（赤） 避難誘導 土砂災害警戒情報 土砂災害警戒判定メッシュ（黄） 避難指示 土砂災害警戒判定メッシュ（紫）	③避難誘導訓練 【避難期 1】 ・案内放送【施設長】 ・避難開始【避難誘導係】 (2F及び3F利用者待機) ・1F利用者：各避難場所(2F)へ避難（避難完了報告） ・避難場所待機 【避難期 2】 ・物品運搬【避難誘導係】 ・本部移動【情報収集係連係】 ・職員全員避難	利用者：〇名 職員：約〇名	〇棟 1F-2F	約 40 分
11:10~		移動等 ・避難者自室へ移動（適宜）			約 5 分
11:15~		④ふりかえり・評価 ・ふりかえり【参加者】 ・アンケート【参加職員対象】	〇名程度	〇棟 2F	約 20 分
11:40		訓練終了			-

（河川の洪水氾濫編）

避難訓練（洪水）をやってみよう

事故・けが等につけ訓練をやってみよう。
冬に実施する場合はインフルエンザ、夏に実施する場合は熱中症などに気をつけよう。



ケアハウス健祥会プロバンス、デイセンターアルル、グループホーム 礼あり優ありで行った。避難訓練の事例を見てみよう。

①避難訓練の取り組み状況



←事前説明

- 訓練前に訓練の流れを説明。訓練参加者のほか、観察記録係や見学者と、訓練の内容や行動等を情報共有。
- 訓練関係者はビブスを着用して準備。



訓練開始

←情報収集伝達

- プロジェクターに映し出したシナリオに沿って、パソコンを使って情報収集係が水位情報を収集・報告。
- 収集した情報をもとに、施設長から各担当に指示を伝達。



↑通所施設の営業中止・利用者の送迎

- 周辺も含めた洪水浸水想定区域図をもとに安全を確認し、通所施設利用者の送迎の有無を確認。



←避難誘導

- 車イスで要配慮者を避難場所に避難誘導。
- EVが停止することも想定して階段でも避難。
- 要配慮者への負担が大きい場合は、職員等が代替。



訓練終了

↑ふりかえり

- 最後に訓練のふりかえりを実施。良かった点、悪かった点を意見交換。

②訓練の内容を記録しよう

- 訓練の内容（行動内容、所用時間、良い点、改善点、その他気づいた点）を記録。
- 訓練の状況をカメラ、ビデオで記録しよう。撮影した映像は「ふりかえり」等で使用し、シーンの思い出に活用。 など

訓練の記録→



←ビブスの着用

- 訓練を記録した時に、役割が明確になるようにビブスの着用を推奨。



←水位記録用紙

- 収集した情報を記録用紙（グラフ等）に記入して、状況をわかりやすく整理。

（土砂災害編）

避難訓練（土砂）をやってみよう

事故・けが等に気をつけ訓練をやってみよう。
冬に実施する場合はインフルエンザ、夏に実施する場合は熱中症などに気をつけよう。



池田博愛会「箸蔵山荘」で行った避難訓練の事例を見てみよう。

①避難訓練の取り組み状況



1

←理事長あいさつ 事前説明

- 訓練前に訓練の流れを説明。訓練参加者のほか、観察記録係や見学者と、訓練の内容や行動等を情報共有。
- 動画により急傾斜地（がけ）の崩壊事例を視聴。



2

訓練開始

←情報収集伝達

- プロジェクターに映し出したシナリオに沿って、パソコンを使って情報収集係が土砂災害警戒判定メッシュ情報を収集・報告。
- 収集した情報をもとに、施設長から各担当に指示を伝達。



3

↑館内放送による避難開始の伝達

- 高齢者等避難の発令を確認し、館内放送により避難開始を職員に伝達。



4

←避難誘導

- エレベーターと階段等を使用して要配慮者を避難場所に避難誘導。
- 多くの職員で対応し、短時間で避難完了。



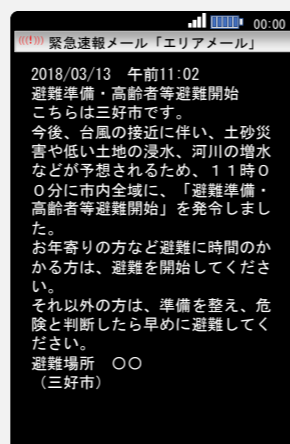
5

↑避難場所

- 畳を敷いて、要配慮者の長い待機時間の負担を軽減。
- 避難完了の報告。

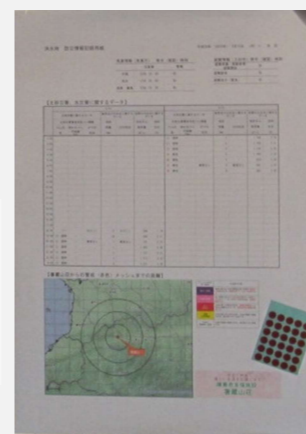
②訓練を工夫してみよう

- 情報収集を円滑にするために、必要な情報収集のサイトのショートカットをデスクトップに作成。
- 情報共有に LINE を活用。
- 訓練の行動内容を確認するため、行動チェックリストを作成して活用。 など



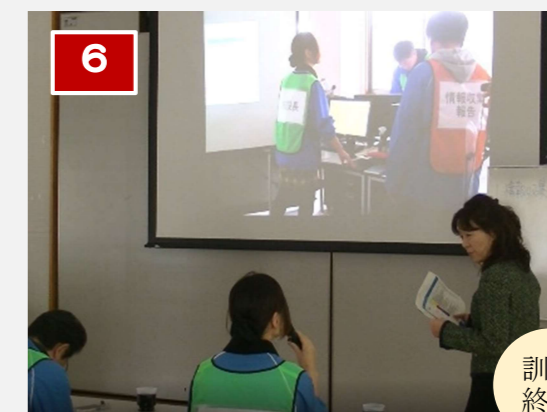
←エリアメール

- 実際の状況を想定するため、エリアメールを活用。



←土砂災害警戒判定 メッシュ記録用紙

- 収集した情報を記録用紙（グラフ等）に記入して、状況をわかりやすく整理。



6

↑ふりかえり

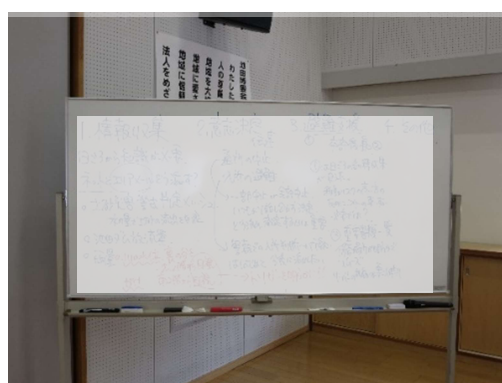
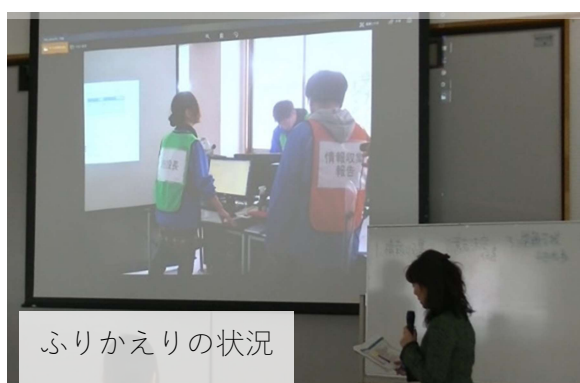
- 最後に訓練のふりかえりを実施。良かった点、悪かった点を意見交換。

訓練終了

訓練のふりかえりをやってみよう

①ふりかえり

- 訓練参加者および観察記録係等を交えて、記憶が鮮明な時点でふりかえりを行い、良かった点や改善した方が良い点を共有しよう。
- ふりかえりは、訓練時に撮影した写真・動画を見せるなどして、訓練参加者の意見を引き出しやすくなるように工夫しよう。
- 訓練中に疑問または不明であった点を確認しよう
- ふりかえりの意見は、その場でホワイトボードなどに書き、意見を共有しよう。
- 行動チェックシートなどを活用して、訓練がうまくできたか確認しよう。



②アンケート

- 訓練を評価・分析するため、訓練参加者および観察記録係などの訓練関係者にアンケート調査をしよう。
- アンケート調査では、訓練全般の評価や訓練時の各行動に対する自己評価のほか、訓練の印象や感想、実施方法についての意見などを聴いてみよう。

③避難確保計画の見直し

- 訓練のふりかえりおよびアンケートの結果などで出た意見をもとに、避難確保計画を見直し、より実践的・的確な避難が可能となるような防災体制を構築しよう。

④訓練の結果報告

- 最寄りの市町村に訓練の結果報告をしよう。訓練や防災体制のアドバイスをもらうとともに、普段から顔の見える関係を築いておこう。

【お問い合わせ先】

徳島県 県土整備部 水管理政策課 水災害対策室

〒770-8570 徳島県徳島市万代町1丁目1番地

電話番号：088-621-2661 FAX 番号：088-621-2870

メールアドレス：mizukanriseisakuka@pref.tokushima.jp

作成日 : 平成 31 年 1 月

第 1 回改訂 : 令和 3 年 9 月